

# インドネシア・西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』づくり

活動地域  インドネシア



ちびっこファシリテーター候補者たちと話す

## 課題

インドネシア・バリ西部において、カンムリシロムクの野生復帰をテコにエコツーリズムを発展させるためには、多くの村人による生息地復元や野生復帰支援活動が必要である。

## 目標

西部バリ国立公園周辺村において、子どもや若者が積極的に参加するカンムリシロムク野生復帰活動が進み、他地域からの視察や村落エコツーリズムの対象となる。



## 今後の展望

各村の環境ファシリテーターの活動支援を通じ、環境教育シラバスの作成、「ちびっこファシリテーター」によるカンムリシロムク・モニタリング、「環境保全ファイトアーズ」による生息地保全活動を展開していきたい。

ひろげる助成

1年目

実践

## 活動内容と成果

新型コロナウイルス禍で学校が休校となり、対面での活動が制限された中、コミュニティファシリテーターたちは村を訪問して、現場にて対話型で環境ファシリテーターの育成活動を行い、ギリマヌク村で5人、ムラヤ村で2人が育成された。また環境教育実施校として上記2村で4校が選定された。さらにムラヤ村クラタカン集落では子どもたちによる「あるものさがし」ワークショップが行われるとともに、野生復帰したカンムリシロムクのモニタリング活動の準備が始まった。また両村では住民主体のゴミリサイクル活動やビーチの清掃活動が始まった。



子どもたちが村で観察したカンムリシロムク

環境ファシリテーター育成 **7人**

あるものさがしワークショップ参加者 **14人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **25%**

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で移動が制限され現地訪問が困難になった。学校が休校したことで環境教育実施に向けた動きが困難となった。

### ■工夫した点

ZoomミーティングやWhatsAppのビデオコールを使い会合を実施。現地では3密を避け屋外で少人数で活動した。